

56

室町大橋(火の橋)



北九州市の「室町大橋」は、紫川マイタウン・マイリバー整備事業の一環として、市内を流れる紫川に架かる十橋のうち、最初に整備が行われた橋で、「火の橋」の別名が付けられている。

橋には、かつて紫川で行われていた鵜飼いの漁火をモチーフにした、八本のオブジェを設けている。このオブジェは炎が遠くからでも見えることと、安全性を考慮して、高さ六メートルの弓状の柱と火の鳥を思わせる先端部が川へ張り出しており、そこから噴き上げる炎が水面をさまざまに変化させる。

また、高欄には光を適度に反射させるアルミを使用し、光の強弱に応じて趣が変わる様子は、炎のゆらめきや水面を走るさざなみをイメージしており、美しいシルエットを楽しむことができる。

DATA・BOARD 56



- ① 福岡県北九州市小倉北区船頭町～室町2丁目
- ② 延長：77.331m、幅員：15m
- ③ 火のオブジェ
- ④ アルミニウム、磁器質タイル